

# 西鶴及び西鶴作品の用字について

杉 本 つ と む

前回、「西鶴の用字法覚書」として、西鶴作品内の用字についてごく簡単に考察しておいた。再び貴重な紙面を費して、作品内の用字について卑見を述べてみようと思う。出発点にあたって、先に考察した結果を略述しておく。(1)西鶴作品中の漢字も、当時一般の用法にすぎない。(2)従来、西鶴のものといわれた漢字はその多くが辞書によって検出できる——当時の用語の範囲ということ。(3)作品による用字の違いはある。しかしそれは、西鶴か否か。或は西鶴作品か否かを決定するきめてとはなり得ない。むしろ筆工の多数、当時の国語の乱れを語っているといえよう。(4)中世の仏教説話をはじめとした説話集に源泉を仰ぐべきこと——これは更に、国語における漢字漢語の問題につながる。以上四項目に分けられようかと思う。そして今後の一課題として、「西鶴作品の用字分布図」の作成を残しておいた。即ち一般的なものの中に、西鶴という特殊なものを浮彫させることであつた。これから述べる用字の研究は、この辺の研究ノートを記述したものである。前回と同様(1)五十音図の順に用語を並べ、(2)用語の出典名を示すことにした。又その主眼は横の関係にある故、訓読上注目すべき用字も単独で見られる場合は割愛したものが多い。(3)猶、用字の中、

当時の辞書類に見出せるものは、略記号(論末を見よ)に依つて註記しておいた。(4)必要に依じて、かな書き語彙も並記しておいた。その他「分布範囲のせまい同訓(音)異字の熟字」及び「訓読上で記述しておく方がよいと思つた事項」は「註」として、各主部の終りに、或は又行間に※印を付け片仮名で註記しておいた。

## 第一部 作品の用字分布

### 【あ】

浮雲(前)一男・二男・一女・男色・永代・難波。

※新可笑ニハ「浮雲」(トモ、見エル。※本比事ニ「雲落」トモ。雲踏(前)男色。(トモニ「雪踏」ガ見エル。)

天窓(前)二男・一女・永代・新可笑。

曙(伊セモ)一男・二男・大下馬・二十不・男色・新可笑。

好盛衰・萬文古・難波。

曙(トモ)一男・一女・五女・男色・新可笑・胸算用。

未明(トモ)俗つれ・懷硯(「武伝」「新可笑」デ未明トアル。)

※「あけぼの」ノ旁ハ、「暑・署」共ニ、通用シタラシク字典ニ見エル。又「あけぼの」ノルビモ見エル。

朝貞・五女・永代・織留・置土産・懷硯・男色・大下馬・名

【い】

殘友

朝顔(易)・一男・男色(舜(伊セ本)トモ)

〔註〕挨拶・(新可笑)・愛抄(新可笑・武伝)挨拶(一世)・良竜

(萬文古)・蝸竜・(胸算用)・丸雪(前)(名殘友・難波・永代・

男色・二十不)・電(懷硯)・按摩(置土産・一男)・按摩(萬

文古)・按摩(俗つれ・武伝)・朝朗・於戯・白地・温媛・

嘲嘆・有栖・兒枕・有増(前)・荒増(前)・有時・或時・分野

・所有・細戸・江鮭(×)・案飽し・周章る(易)・周章數・雲

落・靈しき・荒和布・銅・鐵・暖・飴・粘・括(×)・

誤(×)・蠶・蠶・擬(易)・萌・前・伏(易)・佩・臆(前)

磯(前)・一男・二男・五女・一女・男色・新可笑・胸算用・

永代・難波・王銚

磯(下)・二男・置土産・新可笑・好盛衰・難波

鳥賊(易)・一男・二男・本比事・大下馬

紙鳥・胸算用(織留ニ「紙鳥」トアル。)

衣裳(×)・二男・一女・男色・織留・新可笑

衣裳・二男・五女・一女・男色・好盛衰・永代・織留・新可

笑・置土産・本比事・俗つれ・萬文古・大下馬・

衣裳・本比事・胸算用

衣簪・胸算用・好盛衰・武伝・

晚鐘(×)・織留・  
入相・一男・男色・置土産・新可笑・好盛衰・名殘友・

〔註〕意氣地(俗つれ)・意氣智(男色)・意氣知(萬文古・置

土産)・時勢(一女・新可笑・武伝・王銚・男色・「は」ノ項

モ見ヨ)・日外・新・何國・田舎(以上四語ハホ・全体ニ共

通シテ見エル)・畜(本比事)土産(「みやげ」トモ)・未審

・怒かし(三語共ニ・武伝)・所謂(懷硯)・飯蛸(×)・

(共ニ織留)・鏡(好盛衰)・妖煙(新可笑)・誤・

印肉(萬文古)・鬪(一男)・倡ひ・綵・喧ひ・碇(男

色)・聞しき(前)・(一女・永代)

ナオ「萬文古・本比事」ニアル「姉」ハ「姉」ノ草体ノ

誤ト思ワレル。ソノ他、「析る」・「秀細」ナドモ、誤字ト

思ワレル。又、二部ヲ参照ノコト。

偽・永代・織留・置土産・二十不・好盛衰・武伝・萬文古・

一女・俗つれ・  
ホカニ「口合」(二男)「謹」(男色・武伝)「訛言」(胸

算用)ナドガ見エル。

ナオ「偽」ハ「いつはり」ト訓ジテ「永代・織留・胸算用・一

女・五女・好盛衰・俗つれ・武義理・男色・王銚・」ニ見エル。

(コレハ他ノ諸書・字典ニ見エルトコロデアル。)

〔註〕鳥羽玉(伊セ本)・(一男)・鳥羽黒(二男・一女)・温純(伊セ

本)・(一女・永代・王銚)・饅飴(下)(王銚(カナデウどん

トモ)・温純(二男・置土産)・姥(×)(俗つれ・萬文

古・大下馬・二男・置土産・一女・男色・新可笑・五女)・  
乳母(萬文古・好盛衰)・娼(大下馬・二男)・鵲(俗

可笑・好盛衰・男色・玉銚)…浮歩(一女)…放煙(一女・男色・「い」ノ頃ヲ見ヨ)…恂恂(一男)恂恂(男色)・戲き(武伝・二男)…臺(俗つれ)…浦山數(俗つれ・織留・名残友・男色・二世)…羅綾(新可笑)…和尚(男色)・外郎(王銚)・一二(難波)

【ええ】

特ニ無シ。二、三ヲシルス。  
襟(男)…一男・二男・男色・新可笑・裙・頗…共ニ二男

衣裏(前)…二男・織留・懷硯・一女・新可笑・男色・※新可笑ハ「衣裳」トモアル。

艶女…一女・織留・俗つれ・武義理・武伝・本比事・アト「艶」ノツク熟語ヲアゲテオク。

艶形(新可笑・名残友)・艶容(新可笑)・美艶・艶文(共ニ、男色)・艶姿・形艶(一女)・艶形(名残友)・艶状(男色)ルビハ「え」・「ゑ」ノ両方ガアル

ナオ「や」ノ頃ヲ見ヨ。

【おを】

驚(男)…俗つれ・一女・男色・五女・二男・好盛衰・新可笑・畏…一女・大下馬・本比事・新可笑・萬文古

駭かす・武伝・

面影(男)…置土産・五女・俗つれ・武伝・大下馬・男色・武義理・好盛衰・二男・本比事・新可笑(「面かげ」トモ)・

名残友・一男・二十不

【か】

佛(男)…二男・萬文古・武義理・武伝・新可笑

「註」施(男)(一女)・愧(永代)・怖敷(俗つれ・新可笑・永代)・紅毛(一男)・阿蘭陀(一男・王銚)・和南(男

色・「近代艶隠者」ニ和南トアル。和南ハ梵語デ意ハ「礼拜」…拇指(男色)・「母指」トモ。字書ハ「拇」。親指(二男・一女)・鋸屑(萬文古)・虱(二男・大下馬・一

女・置土産・懷硯・武伝)・爲以・毆髮・雄(共ニ、男

色)・長郷(武伝・懷硯・二十不)・嚙(新可笑・本比事)・瘡(難波)・媒鳥(名残友)・可笑(懷硯・俗つれ・永

代)笑し(一男)・和尙(俗つれ・二部)ヲ見ヨ…音信・白粉(「粉白」・「白粉」トモ)・姨(以上、三語ハ、一般

的ニ見エル)大蛇(「蛇」ニルビガナイ。俗つれ)・追削(胸

算用)・恹・眞・奢…平治る(「王銚」)

縹緲…一男・二男・一女・五女・二十不・好盛衰

縹緲(男)…新可笑・俗つれ・好盛衰・萬文古・武伝・一女・男色・名残友

顔(男)…一男・胸算用・新可笑・俗つれ・武義理・萬文古・男色・難波

良…一女・五女・二世・名残友・男色・一男・織留・永代・胸算用・萬文古・置土産・俗つれ

ナオ「かばせ」ト熟字ニナル時は「面子」(一女・男色・二十不・新可笑)・「顔ばせ」(萬文古)・「良ばせ」(武伝)ナ

ドガ見エル

念記(伊セホ)一女・一男・難波

形見(前)五女・二男・大下馬・男色・俗つれ・好盛衰

形み二十不(「み」ハ衍)

枝(前)一女・男色・五女・胸算用・置土産・好盛衰・懷硯

二十不・武義理・武伝・難波・俗つれ・萬文古

数(前)五女・男色・大下馬・武義理

〔註〕鉦(五女)・鉦(永代)・一男・二男・大下馬・二十不

(二男・五女・男色・新可笑・俗つれ・織留・永代)・莊

(懷硯)・飾(織留)・嚴る(本比事・新可笑)・様(二男

武伝)・嘉様(一男)・加様(二十不・俗つれ・武伝)・帷

子(五女・男色・新可笑・名残友・置土産・二男・武伝

一世・大下馬・王鉦)・維巾(俗つれ)・維子(萬文古・大

下馬・名残友)・樽(懷硯)・鴈(大下馬・俗つれ・一男

一世・二男・五女・王鉦)・鴈(大下馬・二男・新可笑

※「懷硯」・「王鉦」・「萬文古」・ナドデハ「鴈」を「から

す」トモ、読マセル。海道(俗つれ・新可笑・五女・名

残友・武義理・大下馬・懷硯・王鉦)・開道(好盛衰)

首途(男色・五女・俗つれ)・途首(一男)・口鼻(四

男(一男・好盛衰・武義理・一女)・鼻口(一女・二男)・

鼻(一女・二男)・梶(五女・大下馬)・相(一男・

二男・一女)・柏(新可笑)・王餘魚(一男)・蝶(二

男)・姦(一女・男色・二世)・枕(五女・俗つれ・置

【き】

可笑)・鉦(五女・一女・二男・男色・一世・織留・新

可笑・好盛衰・本比事)・鑰(武伝・二男・永代)・形氣

(永代・萬文古・名残友・本比事)・合羽(置土産・俗

つれ・難波)・歌舞妓(一女・男色・二世)・哥舞妓(男

色)・冠氣者(一男)かぶき(一女・新可笑)・絹(織留・

大下馬)・糊(置土産・織留)・棉枝(俗つれ)・算(萬文

古)・輪(一女・二男)・鏢(一男)・鏢(好盛衰)・雷公

(伊セホ)・案山子(共ニ、胸算用)・石花(男色)

誹・詐(二十不)・甲(電風呂(共ニ、新可笑)・翹(永

代)・若杜(名残友)・簡板(懷硯)・一殺ニハ「看板」

トアル)・梓(二十不)・鉦鞍(好盛衰)・羯鞍(王鉦)

ソノ他、鶴瓶・唐・唐虚・觀勸ナドノ兼用ガ

見ラレル。

煙管(二男・男色・織留・名残友・王鉦)・

煙(懷硯・男色・武義理)※撻トモアル。

吸吸(一男・一女)※俳諧ニモ見エル

煙草(一女)

吸筒(名残友)※俗つれニハ「すいづ」トアル。

氣遣(二男・大下馬・俗つれ・五女・一女・男色)・

氣遣(二男・大下馬・俗つれ・五女・一女・男色)・

機遣(一男・二男)

〔註〕襦(胸算用)・肺布(一男・一女)・脚布(男色)※「ふ」

ノ項ヲ見ヨ。久離(一男・一世)・旧里下(永代)・旧離(二男)・

紺<sup>こん</sup>濁<sup>だく</sup>(X) (一男・玉鉢・名残友) ※俳諧ニ「象<sup>さう</sup>濁<sup>だく</sup>」ガ見エル。祇園・祇園(両者共ニアルガ、前者ガ多イ)・桐・梧(二字体ガ見エル)・氣<sup>き</sup>の毒<sup>どく</sup>・氣<sup>き</sup>毒<sup>どく</sup>・氣<sup>き</sup>のどく・きのどく(四字体ノ表記ガ見エル)・霧<sup>きり</sup>・霧<sup>きり</sup>(前者ガ多イ)・木<sup>き</sup>藥<sup>やく</sup>屋<sup>や</sup>・生<sup>せい</sup>藥<sup>やく</sup>屋<sup>や</sup>・錐<sup>すい</sup>・刺<sup>さ</sup>ナドノ共通使用ガ見ラレル。  
ソノ他ニ、去<sup>き</sup>冬<sup>とう</sup>・苑<sup>えん</sup>々<sup>々</sup>然<sup>ぜん</sup>・緊<sup>きん</sup>し・灸<sup>しう</sup>穴<sup>けつ</sup>・薪<sup>しん</sup>棚<sup>たね</sup>・たばね薪<sup>しん</sup>・桐<sup>とう</sup>油<sup>あぶら</sup>・藏<sup>くら</sup>ナドガ見エル。

【く】草<sup>くさ</sup>卧<sup>わ</sup>(前)・一女・五女・新可笑<sup>しん可笑</sup>・一男・大下馬<sup>だい下馬</sup>・二十不<sup>ふ</sup>・本比事<sup>ほんひじ</sup>・玉鉢

※字体「草卧」ト「草臥」トハ同一ト見ナシタ。又訓読ハ「くたひれ・くたふれ」ノ二様(口語調・文語調)ガアル。

草<sup>くさ</sup>外<sup>がい</sup>・懷<sup>くわい</sup>硯<sup>えん</sup>・草刈<sup>くさきり</sup>(大下馬)ハ誤字カ  
勞<sup>らう</sup>倦<sup>けん</sup>(前)・一女

口舌<sup>こうぜつ</sup>・置<sup>おき</sup>土<sup>ど</sup>産<sup>さん</sup>・織<sup>おり</sup>留<sup>りゅう</sup>・好盛衰<sup>こうせいざい</sup>・萬<sup>まん</sup>文<sup>ぶん</sup>古<sup>こ</sup>

口話<sup>こうわ</sup>・二男・好盛衰<sup>こうせいざい</sup>・※口説<sup>くちやく</sup>(二男)モアル。

【註】「くちる」ハ「枵<sup>こう</sup>・朽<sup>こう</sup>・枵<sup>こう</sup>・朽<sup>こう</sup>」ナド見エルガ草体字ノ誤リト解サレル。醫師(永代・武伝)・藥師(胸算用・男色・俗つれ・大下馬)・合(二十不・武伝・懷硯(くらしトモ読ム)・錢<sup>せん</sup>(難波・鏡<sup>きよう</sup>(俗つれ)・愚痴<sup>ぐち</sup>(難波)・愚癡<sup>ぐち</sup>(新可笑)・口解(二男)・詢<sup>ゆん</sup>(一女・武伝・俗つれ)・ソノ他ニハ、

鐘<sup>かね</sup>・柳<sup>りゅう</sup>・柳<sup>りゅう</sup>・寛<sup>かん</sup>・潤<sup>じゆん</sup>・寛<sup>かん</sup>・潤<sup>じゆん</sup>・寛<sup>かん</sup>・潤<sup>じゆん</sup>・海<sup>かい</sup>月<sup>げつ</sup>・水<sup>みづ</sup>母<sup>ぼ</sup>・香<sup>かう</sup>・蜘蛛<sup>くも</sup>・米<sup>こめ</sup>・仙<sup>せん</sup>・昼<sup>ひる</sup>師<sup>し</sup>・瓦<sup>わ</sup>落<sup>らく</sup>・鯢<sup>けい</sup>山<sup>さん</sup>・酌<sup>しやく</sup>る<sup>る</sup>ナドガアル。

【け】特ニ注意スベキ分布ハナイ。訓読上デハ、

下<sup>げ</sup>駄<sup>だ</sup>(胸算用・萬<sup>まん</sup>文<sup>ぶん</sup>古<sup>こ</sup>・二男)・下<sup>げ</sup>踏<sup>たふ</sup>(X) (男色)・化<sup>け</sup>粧<sup>ざい</sup>(二男・新可笑)・假<sup>かり</sup>粧<sup>ざい</sup>(易) (一女)・煙<sup>えん</sup>・烟<sup>えん</sup>・煙<sup>えん</sup>・煙<sup>えん</sup>・抓<sup>け</sup>り・建<sup>けん</sup>・健<sup>けん</sup>氣<sup>き</sup>・喧<sup>けん</sup>嘩<sup>わ</sup>・行<sup>けい</sup>水<sup>すい</sup>・削<sup>けつ</sup>・櫟<sup>けい</sup>木<sup>ぼく</sup>・家<sup>け</sup>頼<sup>らい</sup>ナドガ見エル。

【こ】火<sup>か</sup>燵<sup>だん</sup>(易)・一男・胸算用・男色・難波  
火<sup>か</sup>炉<sup>ろ</sup>・灯<sup>とう</sup>達<sup>だつ</sup>・炬<sup>きょ</sup>達<sup>だつ</sup>・以上、織留

腰<sup>こし</sup>(易)・五女・一女・胸算用・二男・二十不<sup>ふ</sup>・大下馬<sup>だい下馬</sup>・懷硯<sup>くわいえん</sup>・萬<sup>まん</sup>文<sup>ぶん</sup>古<sup>こ</sup>・好盛衰<sup>こうせいざい</sup>・俗<sup>ぞく</sup>つれ・武義理<sup>ぶぎり</sup>

晋<sup>しん</sup>(前)・一女・要<sup>よう</sup>・置<sup>おき</sup>土<sup>ど</sup>産<sup>さん</sup>

膏<sup>こう</sup>(易)・一男・難波

※以上四字体ガアル。右ノ中、「こしも」ト熟字ノトキハ、「腰<sup>こし</sup>元<sup>げん</sup>・腰<sup>こし</sup>本<sup>ぽん</sup>」ノ両方ガ見エル。(前者ガ多イ)又「玄<sup>げん</sup>」(男色)モ見エル

洒<sup>し</sup>し・永代・織留・二男・大下馬

洒<sup>し</sup>し・織留

漏<sup>ろう</sup>(X)・永代・武伝

漏<sup>ろう</sup>(X)・一男

覆<sup>ふく</sup>す(X)・滴<sup>てき</sup>し・二男

面<sup>めん</sup>る・男色 ※二部ヲ参照ノコト

【註】以来(前) (一女・男色)・己<sup>こ</sup>来<sup>きた</sup>(一男)・金<sup>かね</sup>(X) (胸算用)

鏐<sup>ろう</sup>(永代・二十不)・小<sup>せう</sup>鯛<sup>たい</sup>(萬<sup>まん</sup>文<sup>ぶん</sup>古<sup>こ</sup>・名残友)・干<sup>かん</sup>鯛<sup>たい</sup>(名残友)・戀<sup>こひ</sup>れ(男色・本比事・大下馬)・焦<sup>こ</sup>れ(二十不)・社<sup>しゃ</sup>・享<sup>かう</sup>・蕪<sup>わ</sup>・薦<sup>せん</sup>・苔<sup>こけ</sup>・莓<sup>ばい</sup>(易)・牛<sup>ぎう</sup>角<sup>かく</sup>・肥<sup>ひ</sup>汁<sup>じゆ</sup>・風<sup>ふう</sup>・声<sup>せい</sup>・聲<sup>せい</sup>・杏<sup>かう</sup>・祥<sup>しょう</sup>・格<sup>かく</sup>子<sup>し</sup>・隔<sup>かく</sup>子<sup>し</sup>・小<sup>せう</sup>質<sup>しつ</sup>き・心<sup>こころ</sup>玉<sup>たま</sup>・箆<sup>へい</sup>て・箆<sup>へい</sup>・療<sup>りやう</sup>・小<sup>せう</sup>話<sup>わ</sup>・挑<sup>てう</sup>・子<sup>こ</sup>供<sup>ども</sup>・子

共・子ども（「子共」ガ、フツウニ見エル。）・意識・祝言・點・點・小風敷・備たるナドガ見エル。

【さ】

流石（前）一男・二男・難波・永代・名残友・二十不・好盛衰・本比事・懷硯・武義理・新可笑・武伝（コレニハ「石流」ガ見エル。）

石流（前）一男・二男・永代・五女・男色・新可笑・武伝

叫（前）二男・男色（「みゝせ」トモ読ム）

囁・細語・男色（「耳語」トモアル）

私語・一男・永代

小語・一男・永代・男色・一女・二世・俗つれ・本比事

小話・一女・五女・武義理

私言（前）武伝・蜜語・王鉾

少語・大下馬 ※以上十字体

月代（×）一男・二男・男色・新可笑

月代（×）二男・難波・大下馬・俗つれ・新可笑・好盛衰・男色・織留・武伝・名残友

月額（×）胸算用・新可笑

素湯・一女・懷硯・置土産・二男・萬文古・武義理

白湯・永代・武伝

〔註〕漣波（一男）・漣波（二十不）・細波（永代）・舩・厄・盃・羽觴・狩布・澤（「しやれ」トモ）・鯨（×）・小細・難喉・無左法・下卑敷・周章・小細支・大角豆食（×）・漣・珊瑚城・珊瑚珠（×）・さんごじゅ・寒る・西・聞猿・灸たる・吟ひ・三絃

ナドガ見エル。ココニ多クアゲナカタタガ、漢語意識的ナ讀ミ（訓読）ガ目立ツ。一女・男色・懷硯ナドコノ感ヲ深クスル。又、新可笑ハ、音韻性ガ強イヨウデアル。

【し】

淨瑠璃（△）一男・王鉾・一世（「淨瑠璃」トモ）

淨溜利・二男・大下馬・好盛衰・本比事

淨留利・織留・淨留利・男色

淨るり・永代・淨瑠璃・胸算用

淨瑠璃・本比事・好盛衰

淨瑠璃・俗つれ・二世

淨瑠璃・胸算用

右ノ通り、十字体ヲ数エル。コレハ概念ガ文字ニ、先行シテ定着シテシマツテイルノデ「じようるり（ルビハ、じやうるりガ多イ）」ト読メサエスレバヨイノデアロウ。イワユル町人物ニ「カナ混リ」ガ見エル。又、近松ナドニ見エル「上るり」ハ見エナイ。当時ノ混乱振リト見ナシテヨイ。

身軀・二男・永代・胸算用・置土産・五女・二十不・新可笑・好盛衰・武義理・男色・懷硯・難波・武伝

身体・永代・胸算用・置土産・織留・一女・名残友・本比事

俗つれ・萬文古・難波

身體・一世・新可笑

身袋・永代・俗つれ・新可笑・武伝

身代・永代・新可笑・懷硯

身たい・胸算用

右ノ通り、六字体ヲ数エル。金ガ体ニ通ジル点ニオイテ「身体」ハ「身代」ニナルノカ。前ノ「じようるり」ノ時ト違ッテ、各表現ノ字体間ニ意味関連ガ考エラレヨウ。

子細(前)・・一男・二男・一女・五女・大下馬・永代・胸算用・置土産・本比事・二世・武義理・武伝・萬文古・新可笑・俗つれ・好盛衰

仔細(前)・・一世・大下馬(二部ヲ見ヨ)

沈(前)・・二男・永代・新可笑・俗つれ

沉(前)・・二男・永代・二十不・五女・二世・男色・武伝・新可笑・萬文古

笑・萬文古

深めん・・大下馬

尻(前)・・一男・一女・五女・難波・本比事・置土産・萬文古

尻(前)・・二世

尻・・二男・懷硯※ナヲ「尻」ハ「尻」ノ俗体

珠数(前)・・男色・二男・五女・大下馬

珠枝・・織留・胸算用・新可笑・男色・一女・好盛衰・王鉾

意以仁・・永代 ※(前)ニ「すゝたま」トアル。

始末・・胸算用・好盛衰・織留・男色・一世・新可笑・五女・萬

文古・俗つれ・置土産・二男(「初末」モ見エル)・永代(「し

末」モ見エル)。

妹末・・一男※西鶴作品ニハコノ様ニ下ノ字ノ旁ニモツテユクコ

トガ時々見エル。「鎗倉」モ、ソノ例ト解セヨウ。

【註】低く・・きき・・瀝・滴瀝・・所帯・世帯・世帯(「せたい」ト

モ)・・順熟・じゆんじゆく・・仕舞屋・姜荷・子息・極月・師

走・・時雨・蒙・祝儀(易) (胸算用・置土産・二男・男色) 祝義

(胸算用・俗つれ・二男・名残友・好盛衰) 素人(二男・一女・

俗つれ・男色・置土産・名残友) 素い客(二男・好盛衰・俗つ

れ)・・三絃(胸算用)・・三味線(俗つれ・好盛衰・二男・一

女・一男・男色・難波・王鉾・置土産・※ナオ「三」ハ「しや

・さ」ノ両訓ガアル。)・・醬油(易) (五女・二男・男色・胸算

用・萬文古・大下馬・一女) 將油(五女) 醬ゆ(俗つれ)

※(「しやう」ハ「せう」トモアル)。

ソノ他ニハ、白女(永代)・澤女・好盛衰・名残友・一女)・・

腹死・入首(共ニ、武伝)自滅(武義理・新可笑)・・油石灰・合

仕・心事・勝理・自子・繻子・詩歌・慈童・東雲・咬咽吧(ル

ビガナイ。私施) ナダガ見エル。

### 【す】

裾・・五女・永代・男色・二男・一女・名残友・新可笑

裾(前)・・五女・一男

【註】泥龜(前) (一男)・丸魚(二男)・・小鮎魚(前) (胸算用)・

小鮎魚(二男)・干鳥賊(易) (一男)・・鮎(一女・二世・五女・

置土産・好盛衰) 師(二男・二世・俗つれ・好盛衰・新可笑・

一女)・・透(永代・一女・二男・男色・懷硯・婦(二男)・・相

※(新可笑・萬文古・一女・名残友・男色・難波・大下馬・玉

鉾・織留) 西瓜(前) (一男・男色・好盛衰・二男)・・素足(一

女・一男・好盛衰) 隄足(俗つれ)・・水精(前) (二男・懷硯)

形・粧・鮎・鮎・鮎・健・過贈・産業・鮎(王鉾) ナダガ

見エル。

【せ】

倉義(前)：一男・織留  
倉義：織留・大下馬・新可笑・武義理  
倉義(増下)：男色(コレハ。他ニ「倉義・倉義」ノ二字体ガ見  
エル。)

倉儀：大下馬・男色・難波・名残伝・武伝・新可笑

談議：胸算用

倉義：本比事・好盛衰

談議：五女・織留・二十不・新可笑

ナオ、二男ノ「倉義」(中央公論社版)ハ「倉義」ノ草体(倉  
義)ノ誤カト思ワレル。

粹子：置土産・二十不・男色・本比事・好盛衰・新可笑(「粹  
子」トモ)・萬文古

世粹：永代・男色・好盛衰(「粹」トモ)

躬(×)：胸算用

右ノ中「二十不」ノ「粹子」ハ、「娘」ノコトデアツテ「男  
子」ノコトデハナイ。現代高知方言ノ「娘の子」ト通ジルカ。

【註】 種(下) (五女・一男) 種(二男・織留) 種(織留・二世  
名残友) 洗濯(×) (一男・一女・胸算用・新可笑) 洗濯(永  
代) 濁調(男色・難波) 情(松火・媚媚ナドガアル)。

十露盤(四民・×) 一男・二男・一女・五女・永代・置土産・  
織留・二十不・新可笑・一世・好盛衰・本比事・武伝・萬文  
古・名残友

算盤(右同)：胸算用

【た】

【註】 良座(良座トモ) (大下馬・二男・一男・名残友・胸算用)  
即座(一男・五女・新可笑) 生育(永代) 育て(俗)れ。  
撫育(武伝) 樹陳(男色) 肩風(二十不) 花蘭(二男)。  
花蘭(一男・武伝) 圃(永代) 菱麦(永代) 蕎麦(一男)。  
蕎麦(懷硯・二十不) そば(玉鈴)

松火(名残友)

松明(×) (二男)

松炬(前) (永代)

明泰(武義理)

懷硯

燒木(×) 永代・胸算用・新可笑・武義理・萬文古・一女・  
二男・俗つれ・好盛衰・名残友・

薪(×) 二男・一男・大下馬・胸算用・置土産・懷硯・俗つ  
れ・萬文古・難波

旦那(下) 二男・大下馬・一女・男色・五女・永代・織留・  
置土産・胸算用・二十不・萬文古・名残友・武義理・武伝・  
本比事・好盛衰・俗つれ

檀那：永代・武伝

蛇(下) 二男(置土産アル)

蛇：一女・一男

鮎(×) 一女・難波・胸算用・好盛衰

莫若(×) 一女・男色・好盛衰・永代(カナデ「たばこ」ト  
モ)・胸算用・二男・武伝・玉鈴

煙草：一男・二十不・武伝・男色・一女・難波・

若良：二男(「草若」トモ) 煙草(懷硯)



黄著…俗つれ・王銚（「黄著」×トモ）  
若莫…武伝

「たばこ」ハ、以上八字体アル。他ニ俳諧ナドデモ「黄著・烟草」ガ見エルガ、「黄著」ガ一般的デアリ、次第ニ「烟草」ニ移ツタノデアロウ。コノ多様性ハ、草体ノ関係デモアロウ。モットモ、文字ノ定着性ニ乏シカツタトモ考エラレル。「たばこ」ノ伝来ニツイテハ、商品トシテ天正年間ニ輸入サレ、栽培ガ慶長年間トイワレル。「薩隅烟草録」ニハ「慶長五年頃、烟草の葉一匁値銀三匁ナリ」ト見エル。多葉粉・相思草ノ字モ見エル。

足袋×…胸算用・置土産・一女・玉銚・男色（他ニ「踏皮」・踏皮（下）ガ見エル）・一男（他ニ「草踏・足踏」トモアル）  
〔註〕名子（×）（一女・二十不・武伝・懷硯）名（一男）…手祐（二十不・本比事デハ「手祐」ト読ム）・慰なむ（名残友）…纏行（男色・一女）…墮馬髻（難波・名残友）…調議（一女・男色）…大短者（一女）・大膽者（一女・織留・本比事）…太敵（四民）（コレガフツウニ見エル）。「太敵」ハホトンドナクテ、胸算用ニ見エル。グライデアロウ）・溪（武伝）

### 【ち】

（じ）トモ  
女在…一女・武伝・好盛衰・置土産・胸算用  
如在…一女・武伝・新可笑・本比事・胸算用・二十不  
灯挑…一女・二男・大下馬・胸算用・置土産・俗つれ・本比事・萬文古・好盛衰・男色（他ニ「丁灯」ナド三例ガ見エル。）

挑灯…永代・織留・男色・二世・一男・好盛衰・萬文古・難波

灯燈…五女・一世

灯挑…好盛衰・置土産

提灯…一世・二世

提挑…本比事・新可笑

挑燈（×）…二男・男色・新可笑・二十不

※ちやうどトモルビガアル。又ちやうどトモアル。以上八字体ハ、上述ノ「せんぎ」ノ場合ナドト同シデアロウ。

「ちやうちん」ハ、文化史的ニモ、比較的新シイラシク、「文安」ノ「下学集」ニ「挑燈」トアルノガ初見ト言ワレル。

檣籤鈔（前回ノ拙論参照ノコト）ニ「灯呂をアンドン・チャウチンなどいふ、文字如何。答ふ、挑灯と書きてチャウチンとよみ……略……みな唐音か」トアル。山岡俊明ノ「提燈考」ニヨルト永祿天正ノ頃ヨリ用イラレタト言ツテイル。西鶴ノ頃ハ、マダ文字ガ定着シテナカツタノデアロウ。「たばこ」ト同ジヨウニ……。

〔註〕親子（好盛衰）・爺（武伝）…透へ（一般的）・違ひ（一世・二世）…多（武伝）千嬌（男色）…お茶湯（武伝）・千嬌（新可笑）…珍節…身柱ナドガ見エル

### 【つ】

抓取（前）…一女・好盛衰・名残友・萬文古・武義理・織留・一男・二男  
※俗つれハ「抓んで」・懷硯ハ「抓んで」トアル。



潜然(前)・武伝・一女

泪(前)・一男・二男・五女・名残友・永代蔵・難波・織留・  
胸算用・置土産・二十不・好盛衰・本比事・新可笑・武義

理・男色・俗つれ・大下馬・萬文古・懷硯

涙(前)・五女・二十不・新可笑・好盛衰・俗つれ・懷硯・男

色(「涙雨」トモアル。)

内儀(前)・二男・五女・永代・織留・武伝・一世・俗つれ

内義(前)・一男・二男・一女・五女・永代・織留・置土産・

胸算用・大下馬・難波・名残友・本比事・萬文古・新可笑・

二世・好盛衰

難義(前)・一男・二男・一女・男色・永代・織留・二世・名

残友・新可笑・俗つれ・玉鉾

難儀(前)・五女・二男・王鉾・名残友・大下馬・男色・武義

理

〔註〕馴身(永代)・馴染・名染(共ニ、一男)・愛染(一女)・

鉾(一男)・鉾(俗つれ)・醒(一女・二男・二世)・鯉(下

(懷硯・武伝)・醒(二男)・醒さく(男色)・腥(男色)・

批み(胸算用)・慰(下)(胸算用・置土産・大下馬・二男)・

勵れ(前)・一女・男色・懷硯・嬾(前)・一女・男色(本比事)・

池灣(懷硯)・涕(武伝)・存命(武伝)・就中(萬文古・好

盛衰)・半天・形振・(新可笑・好盛衰)・天半(二男)・轉・

・餘餘・惜・山刀豆・遙遙・ナドガ見エル。又、イワユル「遊仙窟

風」ノ読ミデ注意スベキモノモアル。

【に】

特ニ、分布図ヲ示ス用語ハナイ。訓読デハ沸湯・熱込・暴  
雨・日和・悪し・牛涎・如來・女來・入唐・觸る・隣こ  
み・如驚狸・如驚く(前) ※前回ノ拙論ヲ参照ノコト。

【ぬ】

特ニ述ベルコトハナイ

【ね】

特ニナイ。訓読上、二、三用語ヲアゲテオク。白眼(懷硯。  
一般ニハ「にらむ」トアル)踞物・奸人・温漿・睡れる  
任女言・閑纏(二十不。他デハ「寢巻」)

【の】

咽(前)・永代・織留・男色・俗つれ  
喉(前)・一男・胸算用・好盛衰・置土産(「喉」トモアル)  
咽(前)・永代・新可笑・名残友・二十不・萬文古・武義理・  
俗つれ

臥(前)・一女・男色・織留・置土産・名残友・俗つれ・本比  
事・萬文古・新可笑

眼(前)・一女・五女・武伝

睨(前)・一男・男色・永代

眺(前)・二男

〔註〕血(二男・懷硯)・片板戸(懷硯)・熨斗(男)(永代・胸  
算用)・薊籠(「カゴ」トハ、内容異ナル)・逐れ(他ニ「逃  
遁」ガフツウニ見エル。)・暖簾(「のうれん」トモ)

【は】

時花(前)・一女・五女・一男・二男・大下馬・二世・永代・

織留・好盛衰・本比事・名残友・萬文古・男色・王鉢  
時勢・男色  
※二部及び「い」ヲ見ヨ。

〔註〕森・林（懷硯）…介抱（二十不）…羽護込（新可笑）…炭  
（俗つれ・新可笑・男色・置土産・五女・大下馬・武義理）灰  
（武伝・二男）…石持（一男）…砂魚（織留）…鮑（俗つれ）帶  
木（永代）…掃（同上）…帶（俗つれ・二十不・胸算用  
（「ほうき」トモ）…好盛衰・織留（「ほうき」）…削（男  
色）…粗（永代・二十不）…蛋（前（男色・二十不）…馬鹿（一  
男・大下馬・五女・俗つれ・男色・萬文古）…蝶斬（男色）…斬  
（胸算用）一般（「咄」）…白（男色）…屋中（二十  
不）…白昼（新可笑・俗つれ）…破・盤（助詞の「は」）…私  
（二男・胸算用・永代）…早放どらす（二十不）…願數（武伝）  
…天卷…癡妄…跳（俗つれ）ナドガアル。

【ひ】

天鵝絨（前）…一男（天鵝絨（易）トモ）…難波  
天鳶免…二男・男色・懷硯・永代（但シ「一」菟）ト見エル。  
天鵝免…武伝（他ニ「ひろうど」トモ。）

ひろうど…五女・武伝・

〔註〕コノ項デハ「美」ノツク熟字ニツイテ上ゲテオク。美兒…男  
色…五女・新可笑・武義理・武伝・萬文古（「一」呢）トアル。  
美童…男色…五女・武伝・新可笑・萬文古・美道…五女・男  
色…美少年…二男・男色…美男（易）…五女・二男・二十不・武  
伝・武義理・本比事・俗つれ・美形…五女（「一」トアル）  
・懷硯・新可笑（「一」トアル）…武義理…一女（同上）…武

伝・好盛衰（「一」トアル）…置土産（「一」トアル）…  
二男（同上）…俗つれ（同上）…美少女…美曲…一女・五  
女・美花…好盛衰…一女・新可笑・武伝…美景…一女・盛  
衰記…男色・俗つれ・美扇…五女…一女・美古…美妾…美  
筆…美艶…男色…萬文古…美食…萬文古…置土産…織留…新可  
笑…美女（易）…一女・好盛衰・織留…置土産…新可笑…武義理  
…武伝…好盛衰…俗つれ…大下馬…五女・美人（易）…一男・  
大下馬…胸算用…武義理…二十不…俗つれ…萬文古…美遊…置  
土産…美婦…永代…五女・美君…男色…新可笑…武義理…美々  
數（前）…武義理…武伝…懷硯…美僧…五女・男色…美與…俗つ  
れ…美面…美顔…二男

右ノ諸例デモワカルヨウニ、西鶴自身、「美」ノツク字ヲ、  
ゴクアタリマエニ用イタノデアロウ。以上ノ用字ヲスベテハ辭  
書デ檢出スル事ハデキナイガ、森先生ノ言ワレルヨウニ、特殊  
デハナイト思ウ。

ナオ、二・三訓読ニツイテ記シテオコウ。  
混々…寒汗…（懷硯）…日和（名残友・新可笑（他ニ「一」  
トモ）…懷硯…大下馬…一女・男色…好盛衰）…右行左行（一  
女（前回ノ拙論ヲ参照ノ事）…比咄（置土産・名残友・織留  
（他ニ「琵琶」ガアル。）…姫（一女（「一」トモアル））  
儼（一女・一男）…密（新可笑）…

寐（新可笑・永代）…潜（男色）…潜然（武伝）…肱…腕  
…兵…鬢…非寺里（聖ノコト）…干死…日用…終日…一向…皺皮  
…海鹿藻…日來…石矢…一節切…癡筈…爲創き…潰膽丸（キ

モガツブレルカラ？」ナドガ見エル。

【ふ】

不思議(前) 二男・大下馬・一女・五女・俗つれ・名残友・男色・本比事・織留・置土産・王鉢・二世・不思議(前) 一男・二男・織留・好盛衰・男色・一世・不思議 二男・大下馬・一女・二十不・永代・織留・武伝・男色・好盛衰

コレモ、前ノ「ないぎ」ナドト同ジ理由ニヨツテ「義・識・儀」ハ、共通サレタモノデアロウ。

風(前) 一男・一女 風斗・武義理

風(前) 二男 不圖(前) 武伝

禁一男・二男・一女・王鉢

麓 一男・二男・大下馬・置土産・新可笑・難波

【註】鰯汁(一男) 鰯汁(二男・萬文古・一女・二世) ※二男

ニ「河豚」ガ見エル。瓜(本比事・大下馬・二男・萬文古) 瓜(織留) 叩れて・不若衆(懷視) 袋ぬい(好盛衰) 裂

(男色) 染く(武伝) 不愛(新可笑) 不圖(武伝) 不くはい(トモ) 父母・蓋・蓋・憤鼻(下) ナドガ見エル。

【へ】

特ニ記スコトハナイ。「へう」ハ「ひやう」ト同音ト思ワレル。

【ほ】

蜀魂 俗つれ。  
郭公(易) 置土産・織留・男色

杜鵑(下) (易) 二男(他ニ 時鳥 モアル)

無常鳥 二十不 ※以上、五字体ガアル。

【註】共通使用ト見ラレルモノニハ、過邊公・佛ナドガ見エル。「チナミニ、俳諧ニ見エル」(備) ハ、文字通り西國タル佛

ノ國カラ考エタ字デアロウ。ソノ他、癡子(一女・二女・男色・武義理・新可笑) 入墨(一男) 騰くり・胞くり・包丁・庖丁・奎師・先斗・土鍋・鬼灯・忍笑・牡丹ナドガ見エル。

【ま】

眞那板(一) (一女・二十不・置土産・武伝)

末那板(前) 一男(他ニ 組板(下) トモアル) 諒(前) 二代男・男色(「眞言」トモ) 寔(前) 新可笑・織留・二男・置土産(「眞言」トモ)

誠(前) 五女・新可笑・二十不・二男・武伝・好盛衰 ※一代男の「俄」ハ「誠」ノ草体ノ誤リカ。

實(前) 男色・武義理(「眞事」トモアル) 新可笑

【註】眞鰻(又伊セ本) 眞那鰻・學鰻(前) 女・鰻・鰻・羞明(一) 瞬・雜・米・良子・眸(前) 險(易) 稀(前) 希(前) 正々(二十不) 前日(本比事) 町人(男色・二男・武義理) 天木蓼(易) (男色) 賣僧・鞠・毬・繼母・繼子・馬刀石・泰

ナドガ見エル。

味(易) 五女・永代・俗つれ・二十不・男色・二男・好盛衰・名残友・置土産

【み】

味會 一女・胸算用・五女・俗つれ

〔註〕身比羅（二十不・本比事ニハ「身いら」トアル。）土産  
（二男・俗つれ）・みやげ（本比事）・門觀（一男）・耳穴（織  
留）密々・蜜夫（新可笑・萬文古）・叫・菊石・美目形・  
湖・水海ナドガアル。

【む】

郷（前）一男・好盛衰・武義理・本比事  
娘（下）二男・大下馬・永代・織留・置土産・萬文古・武義  
理・新可笑・男色・俗つれ・好盛衰  
息女・懷硯（「娘子」トヨマセテイル。）

男子・永代・織留・好盛衰・置土産・俗つれ・男色・五女・  
胸算用・新可笑・名残友・大下馬（二部ヲ見ヨ）  
〔註〕胸・腎・肝・反・群・骸・體・百足・襦袢・無悟意・駭  
村（群ノ代用トシテ普通ニ見エル。）ナドガ見エル。

【め】

特ニ、分布図ハナイ。訓読上ノモノヲアゲテオク。  
郷・和布・瑞瑤・女魚・食麴・目掛（二女・武伝）・目かけ女  
（置土産）・妾女（好盛衰）・悉惑・婦夫（下）夫婦（×）ナド。

【も】

櫛（前）一女・男色・永代・織留・胸算用・五女・大下馬・  
腕二世・好盛衰・俗つれ  
木綿（前）男色・永代・二男・大下馬・一世  
棉・萬文古  
望姓（前）織留・永代  
望性（前）難波

元手・胸算用  
質（前）織留・本比事

〔註〕弄（易）・翫（前）（男色・新可笑・萬文古）・杓（×）  
（胸算用・二男（「紅葉」トモ。））

囉（前）（胸算用）・黙止し・蚊虻（共ニ、一男）基（男色）・  
模相（物相ノコト）・暫（下）虎落（下）父母ナドガ見エル。

【や】

役（前）織留・永代・胸算用・一女・男色・五女・二十不・  
新可笑・本比事・二男・武義理・難波・大下馬・二世

役（前）二代男・胸算用・永代・武義理・一女・一世  
〔註〕婀娜（前）（一女・男色・新可笑）・艶しき（前）（懷硯・二  
十不）・艶女（二男）・艶姿・風流男（共ニ懷硯）・家父入（一  
女）・養父入（武伝）・野父（武義理）・齒枝（一男）・楊枝（永  
代）・養齒（伊セモ）（二十不）・八百屋（四民）（一男・二男・  
萬文古）・山嵐（二十不孝）・鑢（下）（二十不・大下馬・懷硯・武  
義理・武伝・名残友・永代デハもりト読マセル。）・奴子・  
豹蚊（前）（共ニ、懷硯）・養介（伊セモ）（二十不）・姦敷・弥郎  
〔野郎ノコト）・簇（族トモ）・屋・傷らるゝ。寡。

【ゆ】

特ニ、分布図ハナイ。二、三、記シテオク。  
明衣（前）（二男・男色・織留・武義理・一女）・浴衣（前）  
・（二男）・夢（永代・本比事・武伝）・夢（二十不・懷硯）  
・夢（一男・難波）・襦・內衣・二幅・印可・白雨（前）・努  
々（前）遺言状・遺言ナド。前回ノ拙論【ゆ】ノ項ヲ参照セ

ヨ。

【よ】

娼<sup>あ</sup>・二男・大下馬・一男・永代・織留・胸算用・置土産・一女・二十不・懷硯・武伝・俗つれ・萬文古

娼<sup>あ</sup>（四民）五女・大下馬・永代・織留・置土産・二十不（但シ、「よめらせ」トヨム。）俗つれ。

嫁<sup>あ</sup>・胸算用・懷硯（但シ、「一子」トアル）

〔註〕夜終（一男・武伝）終夜・（易）二十不・武伝・枚算

（武伝）・鶏腹（男色）・粧<sup>あ</sup>（武伝・二男・一女）便<sup>あ</sup>（武

伝）・靚粧（一女・男色）・ナドガ見エル。イワユル遊仙窟

風ノ詭ミガ、男色大鑑・一代女ニ多ク見エルコトヲ記シテオ

ク。

【わらう】

コノ項ハ、兩者ヲ一ツニシテ述ベル。

浪人<sup>あ</sup>（前）一男・二男・大下馬・五女・二十不・織留・胸算

用・新可笑・名残友・男色・武義理・本比事・俗つれ

牢人<sup>あ</sup>（前）織留・永代・胸算用・新可笑・俗つれ・二男・大

下馬・男色・萬文古・武義理・武伝・本比事・懷硯・

牢人<sup>あ</sup>（前）一女・二男・大下馬・俗つれ・新可笑・永代・胸

算用・織留・懷硯・難波

穿人<sup>あ</sup>（前）懷硯

「ら（ろ）うにん」ニツイテハ、前回ノ拙論ヲ参照サレタイ。

浪人・牢人・穿人ノ三字体ガ混在シテイタノガ当時ノ状況デ  
アツタロウ。ソシテ、浪人ト牢（牢）人ノ厳密ナ区別ハ失ナ

ワレツツアツタトモ見ラレル。「牢」ノ草体ノ中ニハ、当時  
ノ辞書ト対照シテ「牢」ト書クベキモノガアルヨウダ。

蠟燭<sup>あ</sup>（前）一女・永代・一世・二世・二男・男色

蠟燭<sup>あ</sup>・一女

らうそく・本比事

「らうそく」ニツイテハ、後考ヲマツ点ガアル。

佗言<sup>あ</sup>（易）永代・織留・置土産・一女

佗言<sup>あ</sup>・二男・大下馬・懷硯（但シ、「託」ノミ。）男色

佗事<sup>あ</sup>（前）二男・五女（「佗しい」トアル。）織留（「一

言」トアル。）

託言<sup>あ</sup>・胸算用・二男・（「わび言」モアル）一女・五女・右

ノ「わびこと」ニツイテハ、オソラク草体字トノ關係ガアロ

ウ。「佗」ト「託」ハ、同一ト考エテヨカロウ。

〔註〕藤蘭（一女）・藤長（武伝）・家頼（同上）・わりなき

馨（武伝）・渚なき（武義理）・和理なく（本比事・新可笑・

懷硯）・今際（懷硯）・差（二十不）・櫛（同上）（前）・和諷利

（二十不）

【り・れ】

——省略

註1. 前回ノ拙論ヲ参照サレタイ。俳諧ノ署名デモ、二様ニ用イ

テイル。

ことわり・「お・を」・「え・あ」・（時ニハ「へ」）・「じ・

ち」等ハ同一ト思ワレル。「い・ひ」・「やう・よう」・「う

ふ」・「ら・ろ」・「そう・さう」・「しよう・せう」ナド、

第二部 諸艷大鑑及び大下馬の用字分布

諸艷大鑑

大下馬

【あ】  
 庵あん。時とき。或ある。人ひと。天窓あまど。愛あいきやう。興きやう。大おほ。鯛たい。  
 按あん。擠あひづ。丸まる。粘ね。商あきなひ。内うち。有あ。時とき。  
 浮あふ。雲うみ。救あまた。多た。

[illegible]

【う】  
 盆子 篋 妻 簾 入子鉢 筑  
 娼 嬢 緋立 賤しき 稻  
 團 諷 證 語

【え】  
名 裾。襟。襦袢。  
或 戎。或 戎装。  
紫羅。每  
龍「トアル」口合 うち地「内  
ノコト」烏羽黒（色）トモ  
込 温純 土竜易林本ニ「土  
込 泡 厳しき 埋

【お】老ひ  
指ゆび。奢あやう。佛ぶつ。  
○白粉そうご。折節おりせふ。風ふう。  
○面影おもかげ。音信おとづれ。驚おどろ。  
世越よこえ。親おや。眞まこと。

【か】「助詞ノ「を」ヲ表ス」  
 〇貞。鴈。鴈。救。肩。

【う】  
有極  
現  
姥  
娼

【お】  
 越度 おもひかげ  
 親仁 おやぢ  
 嵐 おろし  
 愚才 おろち

【か】  
○ 幽<sup>か</sup>  
○ 白<sup>か</sup>  
○ 鴈<sup>かん</sup>  
○ 鴈<sup>かり</sup>  
○ 糞<sup>か</sup>



倉・哥  
片隔  
維里  
誤字？  
形見  
蓋  
甲斐  
榊町  
鉦  
唐太  
海道  
唐笠  
肩  
樞  
古歌  
剃刀  
鍛磨  
鐵

【こ】	【け】	【く】	【き】
玉 <small>たま</small> 声 <small>こゝろ</small>	怪 <small>けが</small>	草 <small>くさ</small> 蛇 <small>へび</small>	遺 <small>い</small> 音 <small>おと</small>
腰 <small>こし</small> 吉 <small>きち</small>	我 <small>わが</small>	藥 <small>くすり</small> 師 <small>し</small>	花 <small>はな</small> 車 <small>くるま</small>
虫 <small>むし</small> 菴 <small>あん</small>	煙 <small>えん</small>	草 <small>くさ</small> 卧 <small>ふ</small>	祇 <small>ぎ</small> 園 <small>えん</small>
今 <small>いま</small> 霄 <small>せう</small>	燠 <small>う</small>	草 <small>くさ</small> 刈 <small>かり</small>	京 <small>きやう</small> 都 <small>と</small>
	肖 <small>せう</small>		
	子 <small>こ</small> 供 <small>ども</small>		
	子 <small>こ</small> 也 <small>や</small>		
	心 <small>こゝろ</small>		

然。格。子。心。玉。今。宵。主。  
供。證。據。〔據。トモ〕  
【さ】。○。叩。き。月。代。〔脈。トモ〕  
。流。石。石。流。素。湯。差。岡。  
座。數。座。數。〔両。者。ハ。同。一。ト  
考。エ。テ。ヨ。カ。ロ。ウ〕。作。配。淋。  
し。き。五。月。乙。女。○。珊。瑚。珠。  
珊。瑚。城。〔珊。ノ。翻。刻。ハ。誤。リ〕  
山。茶。花。三。味。線。〔三。ハ。三。ト  
モ。アル。し。ノ。項。ヲ。ミ。ヨ〕  
。晒。認。○。盃。杯。瓢。  
。零。認。○。滴。り。沈。み。  
【し】。○。沉。み。鎖。懸。し。き。祈。  
〔新？〕。師。る。祝。儀。祝。儀。  
定。終。杓。子。抄。路。〔抄。路？〕  
○。釈。迦。百。性。小。女。法。臥。  
。法師。娼。姑。○。醬。油。身。  
鉢。〔身。代。ノ。時。モ〕。車。軛。○。裝。  
束。裝。束。所。務。師。子。〔獅。  
子。トモ〕。翻。西。師。走。○。始。  
末。時。雨。初。末。職。人。女。  
○。卿。執。行。○。珠。枝。○。猩。く。  
所。帶。世。帶。女。來。○。子。細。  
淨。瑠。璃。三。味。線。○。素。い。客。

【さ】石流いしかが少語さくご  
五月雨きむり淋しきしみ盃さかづき座中ざちゆう  
侍さむらい笹舟ささふね  
臆おそ

【し】  
 零 しやう 風 ふう 十面 じゅうめん 珠 しゆ 救 きう 生 せい  
 宮 みやう 女良 じよら 「じよらう・ぢよ  
 らうトモアル」・子細 こさい・仔  
 細 こさい・百姓 ひやくしやう・職人 しやくじん・獅子 しし  
 痲病 ましやう・杜禮 とれい・勝眞 しやうしん・深めん  
 一斗舂 いちとちゆう 淨溜利 じやうりゅうり



( 126 )

(1)略字ヲ活字化スル時、「例…師・、果シテ、師トスベキカ師トスベキカノ問題。」(2)草体ヲ、ソノマ、活字化スル時「例…僉」、果シテ、拙論ノ様ニ、七字体ヲ作ル必要ガアルカ。コノ点、ツトメテ当時ノ辞書ヲ参照シ、当時ノ草体楷書体ノ默契ヲ再現シタツモリデアル。

以上、はじめぼしいものを列挙して見た。もち論、両者の分量質、共に考えた上で対照しなくてはならない。そして、別の個所で、私がふれたように、両者間の接近度は、他作品と比較した時は、密といえるが相違の著しいと思われる点もないことはない。しかし、同一作品中においても、一源的でない用語のある事、当時の辞書からはみでた用語を問題にすべきだと思ふ。この点、第一部の「用字の分布」を参照してほしい。

x x x

以上、一部・二部で、用字の分布図を描き終った。もちろん完全ではない。まだ／＼摘出を怠った用語は多からう。その点、記入した出典名は、それ以外には、絶対にないと取らずに、「かゝる作品に、かゝる用語がある」と見ていただきたい。今後、折にふれて増補して行くつもりである。従つて、決定的な結論は出し得ないけれども、通観してみても、次の様な事が言えそうである。(前回に述べた結論の追加と考えていただきたい。)

一、(I)或る程度、同一傾向にあるらしい数個の作品群に分けられる。例えば日本永代蔵と織留——この両者の相似、或は、公約数はかなり大きい。そして、少しなりすればその相似の順序からは、西鶴置土産がこよう。更に、広く考えれば、世間胸算

用も入つてよからうが、もし、順序をつけるなら(その相似度からすれば)「A・B・D・H」位のひらきがあると考へてもよからう。次には、(II)好色一代女と男色大鑑との関係である。これについては、既に、註においても記しておいたが、用語訓読(分布状態というよりは、)の上で、実に相似している。おそらく同一の粉本(仮定するならば、「慶安版遊仙窟」(念のため記しておくが、「慶安版」と「元祿版」を対照した結果、両者がほとんど差違ないことを知った。)から出発しているように感じた。「好色一代女」が、貞享三年刊であり「男色大鑑」が、貞享四年であることなど、作品年代の近接の影響なのかも知れない。この点についていえば、同じ貞享四年夏刊の「武道傳來記」ともつながりが見られる。相似順序は、「A・B・D」としてもよからう。これらは、作品内容との研究と相俟たねばならない事は、言うまでもないが、一応仮定しておく。(III)懷硯について一考を要すると思ふ。西鶴の中には、近代艶隠者的な性格があると思ふが、この「懷硯」(文学内容的には別として、私には、とうていそれを論ずる資格はない)の訓読から、大分この「近代艶隠者」等と近いように思われる。いわゆる諸国咄形式でも、「西鶴諸國はなし」よりは、「近代艶隠者」の方に、はるかに近いと思ふ。後考をまちたい。(IV)諸艶大鑑と大下馬との間に、類似性が十分認められる。この事は簡単なようだが重大だと思ふ。なぜならば、作品内容からの反映という事とはそんなに関係がないのだから……。もちろん性急に結論は下せないが、同一人の作品で、且つ、自筆板下という条件

のもとでは、ある種の一貫性を仮定する事が可能ではないかと考えているとも考えられる。(Ⅴ)新可笑記も、懷硯と違った意味で再考を要する。訓読より音読の点が、他作品とくらべて、すこし目立つようだ。漢字音読の点からも見なおしたいと思う。

「難波俳林西鶴」の署名と、「松壽」の印があるのだから、おそらく、彼の作品であろう。であるから、この作品の音読を中心とした用語研究によって、新しく西鶴の性格(教養)も考えられるのではあるまいか。彼が、どれ程漢学の素養があったかは知らないが(「哥仙大坂俳諧師」の序文を参照せよ)……。

(Ⅵ)いわゆる町人物に、比較的「かな書き」が多く見られるようである。(Ⅶ)好男二代男と好色一代男を比較してわかる事だが、前者の書法、あるいは用語字体からして、相当のひらきを示しているように思う。(通用字体、誤字など)特に西鶴の関心がなかったのかも知れないが、やはり、石草の彼の詞は、すこし割引きしたいように思う。好男一代男が、何らかの意味で、一つの權威(当時の辞書類・そういう点から、スタンダードと考えられるもの)によっているように見えるのと比して、好色二代男は、世に知れたという点がもとになって、かなり自由であると思われる。例してみれば、「泥鰌」(一代男)と「丸魚」(二代男)の差のようなものである。

以上七項目を、結論とは言えないまでも、まとめてみた。中世説話集との関係も追究する予定だったが、紙数も大分超過しているのので、この次の機会にゆずった。こゝで、前回の結論について、二三、私見の發展を述べておく。まず、西鶴作品の語彙を調

べるには、前回述べた、四字書の援用が必要であり、易林本節用集を一応、私達の座右の参考書としておくことはよいと思う。しかし、西鶴自身の事に言えば、より平俗的な(たとえば、今度、使った)「四民童子字盡安見」位にさげたものがよいと思う。そして、近世俗字体も、その様な字書中に、見出されると思う。そこにはやはり、中世的なものを、背負っているながら、国語の近世的性格がうかがえるのではないかとと思う。今迄で、字書中に見出しえないものは、実は、近世に入って出ている字体等があるので、まだ字書の近世版がでない時には、登録されていないというのである。この事は、「下学集」(文安)と「増補下学集」(寛文年)の対比によっても、明確だと思ふ。今後、一層この方面の研究を必要とすると思う。さて、西鶴作品内の用語は上の様であるが、これを、広く国語史の一環として考えた時、その意義は又、大なりといわざるをえない。よし中世の伝統を引いているとはいへ、ピロド・ドンス・ジュバン・ボタン・カッパなどの外来語に漢字の定着した型が(ボタンはのぞいて)はじめて小説の中で近代と同じように使われているのも西鶴の作品であり、望郷とか浮雲などは姿を消してしまったものの(これとて明治初年を考えれば、その限りではなからう)歯枝や心太、下駄、鬨斗などにしても、日常の俗語、俗字が、ふんだんに、自由に使われていることに瞠目せざるをえない。更に体・仏・与・数などをはじめとする略字体を、これ又自由にのびのびと使っていることなど、平民文学のみならず、いわば平民文字に一つの權威と地位とを与え、思想伝達の道具たらしめる基礎をつくった点など、心から讀

辭を呈したい。彼の文学上の功績（おそらく、こんな言葉は、彼は好まないであろう。）と比して、決して劣ることがないのみならず、その國語史上の効力も又、大きなものがあると言ってよからう。そしてそこには、やはり近世初期の自由にして、のびのびとした新しい町人階級の清新な息吹きをじかに聞くような氣がするのである。欄筆にあたって諸兄姉の御批判と御教示を願っております。

○引用書の書名と略記号について。

- (1) 易林本節用集（略称は、易。）…慶長二年版（前） 覆刻
  - (2) 伊勢本節用集（略称は、伊セ本）…天正年刊 覆刻
  - (3) 下学集（略称は、下。）…文安元年、（前）寛文十三 早大
  - (4) 増補下学集（略称は、増下）…寛文九年刊 早大
  - (5) 鼈頭節用集諺解（略称は△）…貞享五年刊（前） 早大
  - (6) 合類大節集（略称は、×…享保二年刊（初版延宝） 私藏
  - (7) 四民童子字盡安見（略称は、四民）…正徳六年刊 早大
- ※節用集ニモレテイルモノヲ童蒙ノ為ニ登録シタ旨ノ序ガ見エル。

# ○書名略稱の一覽

難波	難波の只は伊勢の白粉	五女	好色五人女（同三）
一男	好色一代男（天和元）	一女	好色一代女（右同）
二男	好色二代男（貞享元）	二十不	本朝二十不孝（右同）
大下馬	（西鶴諸國咄）（同二）	懷視	男色大鑑（同四）
一世	腕久一世の物語（右同）	武伝	武道傳來記（右同）

永代—日本永代藏（元祿元）  
 武義理—武家義理物語（右同）  
 好盛衰—好色盛衰記（右同）  
 新可笑—新可笑記（右同）  
 本比事—本朝櫻陰比事（元祿二）  
 王鈴—一目玉鈴（元祿二）  
 胸算用—世間胸算用（同五）  
 置土産—西鶴置土産（同六）  
 織留—西鶴織留（同七）  
 俗つれ—西鶴俗つれ（同八）

萬文古—萬の文反古（同九）  
 名残友—西鶴名残の友（十二）  
 二世—腕久二世物語（正徳五）  
 （以上廿四作品）

ことわり…稿成ってから、暉峻先生より、俳諧の方も見るようにと御指示を受けた。しかし、ついにそれをなしえなかった。確かに、大きな悔を残してしまったことになる。俳諧には、（西鶴自筆のものを除いても）漁翁・儒・襟（共ニ、字書ニハ、見エル）—などの興味ある訓説が見出せる。殊に、自筆のものには、小説に見えるもの—たとえば「無常鳥」・「男鳴」の類。漢語音読上興味ある例語など—と対照して大いに発明できるものもあると思う。又「西鶴俳諧大句數」が、水田西吟（好色一代男の筆工）の板下といわれるので、「淨瑠璃」の字体が見えるのも、意味深長であらう。しかし、現在の所、一応「小説」だけに限って推論を立てることにしてみた。他日俳諧も調査し、両者を綜合して本当の意味で、御期待にそえるような結論を導き出して見たいと思う。入学試験など種々御多忙のところ「鶴と鶴」の相違、「タバコ」の伝来」など細かいところまで御教示いただき、私事ではあるけれども、心から感謝いたします。（三〇・四・六）